

シュリー・アヴァドゥータ・ストートラム

第1節

नित्यानन्दाय गुरवे शिष्यसंसारहारिणे ।
भक्तकार्यैकदेहाय नमस्ते चित्सदात्मने ॥

nityānandāya gurave śiṣya-saṁsāra-hāriṇe |
bhakta-kāryaika-dehāya namaste cit-sad-ātmāne ||

グルであるニッティヤーナンダに敬意をささげる、
彼は弟子たちを転生から救い、
信奉者たちが必要とするために肉体を持って現れ、
その本質は大いなる意識と存在である。

第2節

निर्वासनं निराकाङ्क्षं सर्वदोषविवर्जितम् ।
निरालम्बं निरातङ्गं नित्यानन्दं नमाम्यहम् ॥

nirvāsanam nirākāṅkṣam sarva-doṣa-vivarjitam |
nirālabham nirātaṅgam nityānandam namāmyaham ||

欲望が無く、期待することが無く、全く欠陥が無く、独立していて恐れが無い
——そのようなニッティヤーナンダに頭(こうべ)を垂れる。

第3節

निर्ममं निरहङ्कारं समलोष्टाश्मकाञ्चनम् ।
समदुःखसुखं धीरं ह्यवधूतं नमाम्यहम् ॥

nirmamam nirahaṅkāraṁ sama-loṣṭhāśma-kāñcanam |
sama-duḥkha-sukham dhīraṁ hyavadhūtaṁ namāmyaham ||

所有欲が無く、利己心が無く、
土くれ、石、黄金を同じものと見なし、
幸福や悲しみに動じず、
全く揺らぐことがない——そのようなアヴァドゥータに、心から頭を垂れる。

第4節

अविनाशिनमात्मानं ह्येकं विज्ञाय तत्त्वतः ।
वीतरागभयक्रोधं नित्यानन्दं नमाम्यहम् ॥

avināśinam ātmānaṁ hyekaṁ vijñāya tattvataḥ |
vīta-rāga-bhaya-krodhaṁ nityānandaṁ namāmyaham ||

「大いなる自己は破壊できない、なぜならそれは一つのものだからだ」。
この真理を知っているので、彼には執着、恐れ、怒りが無い
——そのようなニッティヤーナンダに頭を垂れる。

第5節

नाहं देहो न मे देहो जीवो नाहमहं हि चित् ।
एवं विज्ञाय सन्तुष्टं ह्यवधूतं नमाम्यहम् ॥

nāhaṁ deho na me deho jīvo nāham ahaṁ hi cit |
evaṁ vijñāya santuṣṭaṁ hyavadhūtaṁ namāmyaham ||

「私は肉体ではなく、肉体も私のものではない。私は束縛された魂ではない、
なぜなら私は大いなる意識だからだ」。このように考えて、彼は満足している
——そのようなアヴァドゥータに、心から頭を垂れる。

第6節

समस्तं कल्पनामात्रं ह्यात्मा मुक्तः सनातनः ।
इति विज्ञाय सन्तृप्तं नित्यानन्दं नमाम्यहम् ॥

samastam kalpanā-mātram hyātmā muktaḥ sanātanaḥ |
iti vijñāya santṛptaṁ nityānandaṁ namāmyaham ||

「この宇宙全体は精神的な概念にすぎない。大いなる自己のみが
自由で永遠である」。このように考えて、彼は完全に満足している
——そのようなニッティヤーナンダに、頭を垂れる。

第7節

ज्ञानाग्निदग्धकर्माणं कामसङ्कल्पवर्जितम् ।
हेयोपादेयहीनं तं ह्यवधूत नमाम्यहम् ॥

jñānāgni-dagdha-karmāṇaṁ kāma-saṅkalpa-varjitam |
heyopādeya-hīnaṁ taṁ hyavadhūtaṁ namāmyaham ||

彼の行為は悟りの火で燃え尽き、欲望と野心は一掃され、
受け入れたり拒絶したりする必要がない
——そのようなアヴァドゥータに、心から頭を垂れる。

第8節

स्वभावेनैव यो योगी सुखं भोगं न वाञ्छति ।
यदृच्छालाभसन्तुष्टं नित्यानन्दं नमाम्यहम् ॥

svabhāvenaiva yo yogī sukhaṁ bhogaṁ na vāñchati |
yadṛcchā-lābha-santuṣṭaṁ nityānandaṁ namāmyaham ||

生来のヨーギとしての資質を持ち、
遊興や娯楽を望まない。

求めずにやって来るものが何であれ、それに満足している
——そのようなニッティヤーナンダに、頭を垂れる。

第9節

नैव निन्दाप्रशंसाभ्यां यस्य विक्रियते मनः ।
आत्मक्रीडं महात्मानं ह्यवधूतं नमाम्यहम् ॥

naiva nindā-praśaṁsābhyāṁ yasya vikriyate manaḥ |
ātma-kṛīḍaṁ mahātmānaṁ hyavadhūtaṁ namāmyaham ||

非難や称賛によってさえ、彼のマインドがかき乱されることはない。

大いなる自己の中で楽しみ、偉大なる魂を持つ者
——そのようなアヴァドゥータに、心から頭を垂れる。

第 10 節

नित्यं जाग्रदवस्थायां स्वप्नवद् योऽवतिष्ठते ।
निश्चिन्तं चिन्मयात्मानं नित्यानन्दं नमाम्यहम् ॥

nityaṁ jāgrad-avasthāyāṁ svapna-vad yo 'vatiṣṭhate |
niścintaṁ cinmayātmānaṁ nityānandaṁ namāmyaham ||

常に目覚めている境地にあって、眠っている人のように過ごす。

不安が無く、彼のマインドは純粹な大いなる意識の本質である
——そのようなニッティヤーナンダに、頭を垂れる。

第 11 節

द्वेष्यं नास्ति प्रियं नास्ति नास्ति यस्य शुभाशुभम् ।
भेदज्ञानविहीनं तं ह्यवधूतं नमाम्यहम् ॥

dveṣyaṁ nāsti priyaṁ nāsti nāsti yasya śubhāśubham |
bheda-jñāna-vihīnaṁ taṁ hyavadhūtaṁ namāmyaham ||

彼にとっては、憎むべきものも無く、いとしいものも無い。

彼にとっては、善も悪も無い。差違の知識も無い

——そのようなアヴァドゥータに、心から頭を垂れる。

第 12 節

जडं पश्यति नो यस्तु जगत्पश्यति चिन्मयम् ।
नित्ययुक्तं गुणातीतं नित्यानन्दं नमाम्यहम् ॥

jaḍaṁ paśyati no yastu jagat paśyati cinmayam |
nitya-yuktaṁ guṇātītaṁ nityānandaṁ namāmyaham ||

彼にとって知覚の無いものは無い。全世界は

大いなる意識で満たされている。グナを超越し、永遠なるものと一緒になった

——そのようなニッティヤーナンダに、頭を垂れる。

第 13 節

yo ih dxRnma`e% pvte wuvn`ym«
पावनं जङ्गमं तीर्थं ह्यवधूतं नमाम्यहम् ॥

yo hi darśana-mātreṇa pavate bhuvana-trayam |
pāvanaṁ jaṅgamaṁ tīrthaṁ hyavadhūtaṁ namāmyaham ||

真に彼は、一見するだけで、三界を浄化する。

彼は動かせるものであり、動かせないものであり、すべての聖地である

——そのようなアヴァドゥータに、心から頭を垂れる。

第 14 節

सर्वपूज्यं सदा पूर्णं ह्यखण्डानन्दविग्रहम् ।
स्वप्रकाशं चिदानन्दं नित्यानन्दं नमाम्यहम् ॥

sarva-pūjyam sadā pūrṇam hyakhaṇḍānanda-vigrahaṁ |
sva-prakāśaṁ cid-ānandaṁ nityānandaṁ namāmyaham ||

あらゆる者たちの崇拝の対象であり、永遠に完全で、至福の具現であり、
不可分で、自らの光で輝いて、至福の大いなる意識の中で楽しんでいる
——そのようなニッティヤーナンダに、頭を垂れる。

第 15 節

निष्कलं निष्क्रियं शान्तं निर्मलं परमामृतम् ।
गणेशपुरीवासिनं ह्यवधूतं नमाम्यहम् ॥

niṣkalaṁ niṣkriyaṁ śāntaṁ nirmalaṁ paramāmṛtaṁ |
gaṇeśapurī-vāsinam hyavadhūtaṁ namāmyaham ||

完全で、いかなる行動も起こさず、平穏で、汚れなく、
この上なく甘美で、ガネーシュプリーに住んでいる
——そのようなアヴァドゥータに、心から頭を垂れる。

第 16 節

योगपूर्णं तपोमूर्तिं प्रेमपूर्णं सुदर्शनम् ।
ज्ञानपूर्णं कृपामूर्तिं नित्यानन्दं नमाम्यहम् ॥

yoga-pūrṇam tapo-mūrtiṁ prema-pūrṇam sudarśanam |
jñāna-pūrṇam kṛpā-mūrtiṁ nityānandaṁ namāmyaham ||

ヨーガにおいて完全で、苦行を体現する者であり、愛に満ち、

吉兆な表情を備え、完全な実現を遂げ、恩恵の具現である
——そのようなニッティヤーナンダに、頭を垂れる。

सद्गुरुनाथ महाराज की जय

sadgurunāth mahārāj kī jay

真のグルに万歳！

© SYDA Foundation®. 著作権所有。

「シュリー・アヴァドゥータ・ストートラム」は、詩聖ボーレー・バーバによって書かれたサンスクリット語の献身的な教典である『ヴェーダーンタ・チャンダヴァリ』から派生しています。バーバ・ムクターナンダは、『ヴェーダーンタ・チャンダヴァリ』の詩節が彼のグルであるバガヴァーン・ニッティヤーナンダの境地をいかに的確に描写しているかを見て、シッダ・ヨーガ・アーシュラムでの朗唱のために、その幾つかの詩節をストートラムに適合させました。ストートラムを完成させるために、バーバは最初と最後の詩節を追加しました。

このストートラムは、『ネクター・オブ・チャンティング』にも掲載されており、シッダ・ヨーガのブックストアでお求めになることができます。



© 2022 SYDA Foundation®. 著作権所有。